

令和6年度 第2回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和6年11月22日（金）19：00～21：00
- 2 会 場 とかちプラザ 1階 大集会室
- 3 出席委員 橋本 功、柴山 敬、山田 知史、平田 昌弘、矢野 充、鳴海 亮、
加藤 貴裕、藤森 元恵、岸田 智子、野村 勇、久保田 博己、
三浦 真希子、小沢 俊幸、佐藤 康則
(以上14名、敬称略)
- 4 事務局 生涯学習文化課課長補佐 米通 朋樹、生涯学習文化課生涯学習係主任
加藤 主夫、生涯学習文化課生涯学習係主任補 中橋 一平
(以上3名)
- 5 会議次第
○第2回会議は、一般社団法人帯広青年会議所の11月例会の視察を行った。

<視察内容>

(1) 第1部 ジェネレーション開発委員会 実績発表

- ① JCI グローバルユース国連大使 北海道鹿追高等学校 河上 瑞美 氏による発表
 - ・道外出身者、鹿追高の先輩がJCI グローバルユース国連大使であったことが鹿追高へ進学したきっかけの1つ
 - ・テーマは「国際平和」、国内研修、カンボジア、フィリピンへの海外視察を実施
 - ・カンボジアでは地雷原や戦争の歴史について学んだ
 - ・フィリピンでは貧困、格差社会の現実を学んだ
 - ・国際平和へ貢献するために自分ができることは「教育」
 - ・志の高い仲間と一緒に活動した経験を活かし、啓発活動に携わっていきたい
- ② 北海道更別農業高等学校による発表
 - ・畜産農家の見学や、小学校等において料理教室を開催
 - ・小学生とも同じ目標を持つことで、年齢が異なっても協力することの大切さを学んだ
 - ・教えることの楽しみを実感した
- ③ 帯広大谷高等学校 塚田 笑叶 氏、古内 花 氏、
帯広北高等学校 今井 和希 氏
 - ・小学生とその保護者向けに料理教室を開催
 - ・食育についてイラストやクイズを用いてわかりやすく解説した

- ・話し方、こどもたちの姿勢などから、場面転換の手法を学んだ

(2) 第2部 ジェネトーク「事業検証&今後の青少年育成事業」

講師 公益社団法人日本青年会議所第68代会頭 鎌田 長明 氏

インターステラテクノロジズ株式会社

ターボポンプグループ マネージャー 山中 翔太 氏

十勝教育局 社会教育指導班 課長 鈴木 毅 氏

- ・青少年育成において自己肯定感、自己効力感を向上させていくことは大切だが、教育関係者だけでは成功せず、地域の協力が必要
- ・若いうちから挑戦心を育むことで、失敗を次に活かせる能力を補うことができる
- ・社会の変化のスピードは著しく、今までのやり方では追いつくことが困難であるため、数千億円のスペースシャトルも幾度となく失敗を乗り越えて成長しているのと同様に、失敗を貴重な機会と捉えて果敢に挑戦してほしい

6 参加した委員の意見

(1) 第1部について

- ・自ら積極的に行動して他者理解に努め、自分事として取り組み、自分の成長を実感できている生徒を見て素晴らしいと感じた
- ・小学生や大人との異世代の触れ合いが貴重な経験になったと思う
- ・彼らがこれからどのような行動や発信をしていくのか楽しみ
- ・成長とともに、生徒の心の変容を見ることができ、心地良い時間であった
- ・発表に「プロセス」の部分がもっとあれば、過程における思考や判断についても知ることができると感じた
- ・高校生たちは、今回の経験における様々なコミュニケーションから、これからの人とのつながり方や会話の楽しさを感じることができたと思う

(2) 第2部について

- ・パネラーの言葉で「2階から落ちてもいいが、3階から落ちてはいけない」のとおり、無謀でも同じ「挑戦」と捉える生徒がいるため、根拠を見出して取り組ませる必要があると感じた
- ・成功体験だけではなく、小さな失敗を重ね、克服させていく機会が重要
- ・(アンケートより) 高校生の50%が地域を良くしたいと考えているとのこと、大変大きな数字であると感じた
- ・経験により生徒が自信を獲得した際、一緒にいる大人も達成感を得ると思う
- ・「住民に希望を持ってもらうことが地域存続の鍵」との話が心に残った

以上